

●●● 2020年10月～12月期 栃木県中小企業景況調査(166回) ●●●

【栃木県DI指数天気図】 point!

今期(県内全体)の業況

DI値
-35.2
※全国 -26.1

県内全体の業況(DI値)は、小売業が19.1ポイントと大幅に回復したことなどにより前期(7-9月)から6.4ポイント改善した。全国と比較すると、9.1ポイント低く、また、コロナ禍前(前年同期)と比較すると約10ポイント悪化しており、依然として厳しい状況が続いている。来期は改善傾向にあった小売業が大幅に悪化する一方、建設業が大幅に改善する見通しであり、県内全体の業況は0.3ポイントの上昇を見込んでいるものの、緊急事態宣言の発令により、影響悪化が懸念される。

～天気図の指標～

現状	良い	やや良い	やや悪い	悪い	とても悪い
天気図					
DI値	15.1～	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～

業種	項目	今期(全体)	売上額	仕入単価※	採算	資金繰り	来期予想(全体)
製造業							
	DI値	-36.8	-73.3	17.3	-80.0	-56.7	-38.5
業況：売上額が大幅に改善、採算と資金繰りは小幅な改善、原材料仕入単価は悪化(DI値 前期比+4.6ポイント)							
建設業							
	DI値	-28.5	-40.0	40.0	-45.0	-10.0	-17.4
業況：完成工事額、材料仕入単価、採算が悪化、資金繰りは改善(DI値 前期比-0.3ポイント)							
小売業							
	DI値	-23.1	-45.0	7.5	-40.0	-20.0	-36.3
業況：売上額は小幅な改善、その他は大幅な改善、来期は全体的に悪化の見込み(DI値 前期比+19.1ポイント)							
サービス業							
	DI値	-41.5	-50.1	13.3	-46.6	-18.3	-37.4
業況：全体的に大幅な改善、来期は資金繰りが悪化する見込み(DI値 前期比+3.5ポイント)							

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります

【経営上の問題点】

製造業

- 第1位：需要の停滞(48.1%)
- 第2位：生産設備の不足・老朽化(13.0%)
- 第3位：製品(加工)単価の低下・上昇難(11.7%)

建設業

- 第1位：民間需要の停滞(30.3%)
- 第2位：従業員の確保難(24.2%)
- 第3位：熟練技術者の確保難(12.1%)

小売業

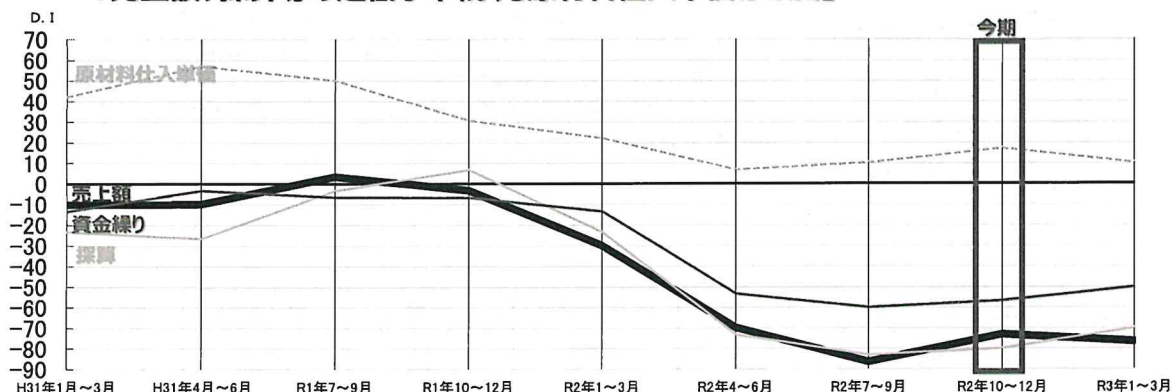
- 第1位：消費者ニーズの変化への対応(27.6%)
- 第2位：需要の停滞(25.9%)
- 第3位：大・中型店の進出による競争の激化(8.6%)

サービス業

- 第1位：需要の停滞(31.5%)
- 第2位：利用者ニーズの変化への対応(21.3%)
- 第3位：従業員の確保難(9.0%)

製造業

「売上額、採算等の超低水準続くも原材料仕入単価は改善」

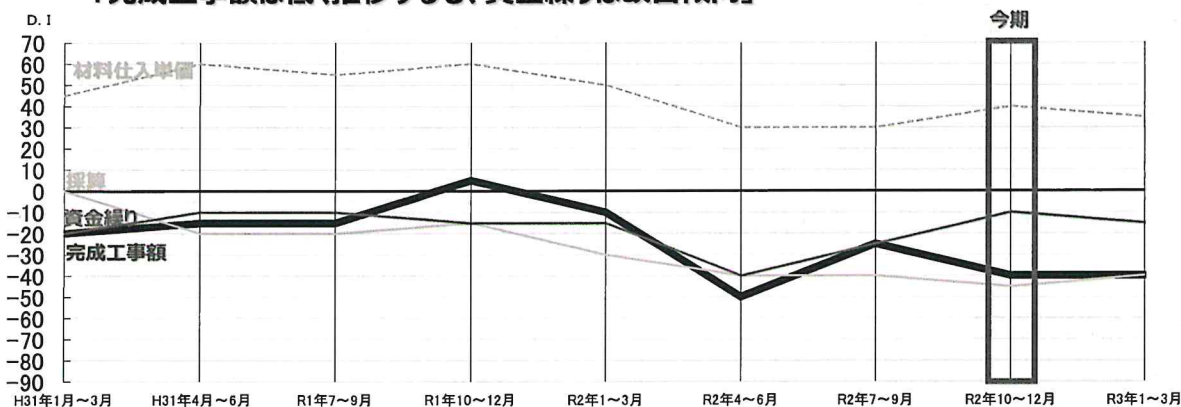


「売上額」は13.4ポイント(-86.7→-73.3)と大幅に回復し、「採算」は3.3ポイント(-83.3→-80.0)「資金繰り」も3.3ポイント(-60.0→-56.7)と小幅に回復した。来期において「売上額」が-3.4ポイント(-73.3→-76.7)と小幅に悪化するものの、「採算」が10.0ポイント(-80.0→-70.0)の改善、「資金繰り」は6.6ポイント(-56.7→-50.1)と小幅に改善する見込みである。

「原材料仕入単価」は6.9ポイント(10.4→17.3)悪化した。来期は、前々期とほぼ同値(17.3→10.3)まで回復すると見込まれる。

建設業

「完成工事額は低く推移するも、資金繰りは改善傾向」

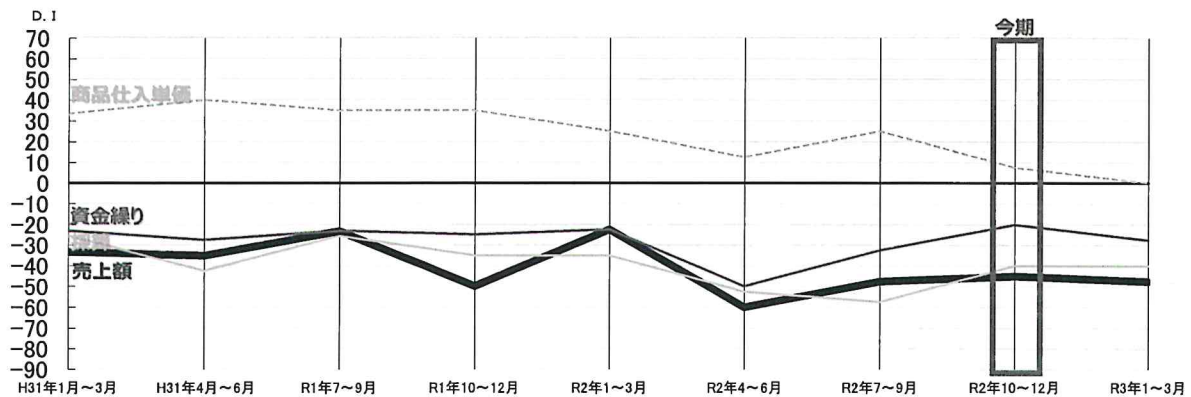


「完成工事額 (売上額)」が-15.0ポイント(-25.0→-40.0)と大幅に悪化した一方、「資金繰り」は15.0ポイント(-25.0→-10.0)と大幅に改善し、「採算」は5.0ポイント(-40.0→-45.0)と小幅に改善した。来期において、「採算」(-45.0→-40.0)は5.0ポイントと小幅に改善、「資金繰り」(-10.0→-15.0)は5.0ポイントと小幅に悪化、「完成工事額 (売上額)」は横這いとなる見通しである。

「材料仕入単価」(30.0→40.0)は10.0ポイント悪化したものの、来期は小幅に改善すると見込まれる。

小売業

「売上額低調も商品仕入単価が改善続く」

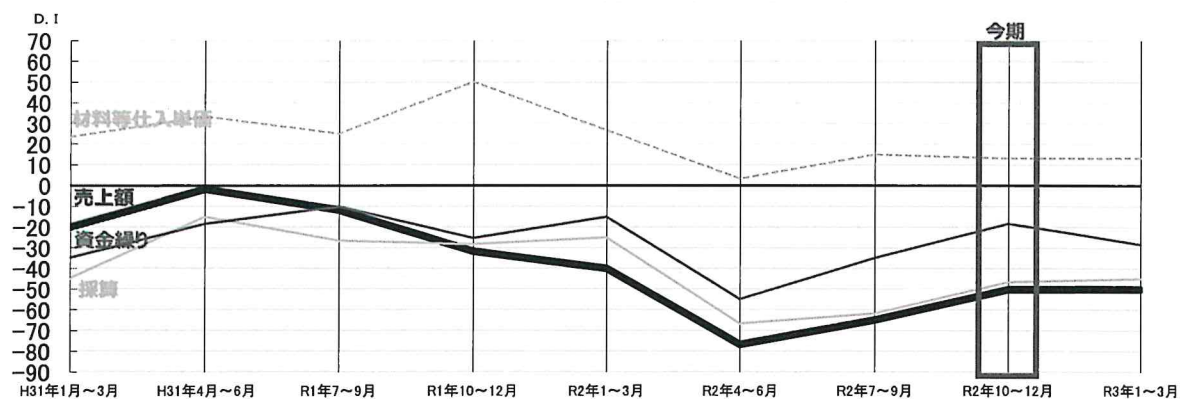


「採算」は17.5ポイント(-57.5→-40.0)と大幅に改善した。「資金繰り」は12.5ポイント(-32.5→-20.0)、「売上額」は2.5ポイント(-47.5→-45.0)と改善した。来期において「採算」は変動がなく、「資金繰り」は7.5ポイント(-20.0→-27.5)の悪化、「売上額」は2.5ポイント(-45.0→-47.5)と前々期と同値まで後退する見込みである。

「商品仕入単価」は17.5ポイント(25.0→7.5)と大幅に改善し、来期も7.5ポイント(7.5→0.0)と更なる改善が見込まれる。

サービス業

「全ての項目で改善傾向も、来期は資金繰りが悪化の見込み」



「売上額」は14.8ポイント(-64.9→-50.1)、「資金繰り」は16.7ポイント(-35.0→-18.3)、「採算」は15.1ポイント(-61.7→-46.6)といずれも大幅に改善した。来期において、「採算」は1.6ポイント(-46.6→-45.0)「売上額」は0.1ポイント(-50.1→-50.0)の改善とほぼ変動がなく、「資金繰り」は-10.0ポイント(-18.3→-28.3)の悪化となる見込みである。

「材料等仕入単価」は-1.7ポイント(15.0→13.3)悪化し、来期は0.1ポイント(13.3→13.4)の低下とほぼ変動がなく停滞が見込まれる。

調査要領

○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的实施に資するものとする。本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の4業種を、主要景況項目(売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り)から分析し、景況情報をまとめたものである。

○調査対象地区（栃木県商工会地区）

粟野・にのみや・石橋・桑絹・大平町
岩舟町・塩谷町・高根沢町・那須烏山・足利市坂西

○調査時点

2020年12月1日

○調査対象期間

2020年10月～12月期の実績及び、2021年1月～3月期の見通しについて調査

○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

○回答企業数内訳

業種	回答企業数	構成比(%)
製造業	30	20.0%
建設業	20	13.3%
小売業	40	26.7%
サービス業	60	40.0%
合計	150	100.0%

※D I 指数とは

報告書に登場するD I 値とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index = 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

D I 値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、D I 値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がりを示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%となったとすると、D I 値は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを示している。